

## 1. 患者さんの状況に応じた看護を提供する。

### ①看護の質保証をする。

看護を提供する際、患者さんの意向を確認する。  
実際の看護を提供するに当たっては、看護業務手順を活用し質の保証をする。  
患者さんの状況に応じた看護を提供する。  
クリニカルパスを作成し、医療の標準化、看護の標準化を図る。  
看護手順・基準の定期的な見直しと変更のあった時点での見直しを徹底する。

### ②看護過程(PDCAサイクル)を実践する。

ヘンダーソンの看護論を用いて看護する。  
問題リスト、看護計画を活用し、問題解決志向型記録(POS)を行う。  
ありのままの記録を書く。  
看護記録記載基準に基づいた記録をする。  
倫理的配慮のある患者記録をする。  
記録の監査を行う。

## 2. 安心・安全・安楽な看護を提供する。

### ①安全ラウンドの実施(第4木曜日)

感染対策委員、セーフティ委員、部署長の三者で自部署の安全ラウンドを実施する(第4木曜日)  
安全ラウンドの報告書は直ちに安全管理室へ提出する。  
業務部長、看護部長、感染対策委員長、セーフティ委員長、ICT全員でラウンドし、環境改善に努める。  
偶数月は病棟、奇数月は病棟以外を巡視する。

### ②看護業務手順書の活用

誰が行っても同じ説明・同じ行為が出来るようにする。  
手順や物品に変更が生じた場合、直ちに修正をする。  
いつでも安心して看護ケアが提供できるように、使いやすい手順書を作成する。

### ③リスク感性を養う。

リスク感性を養う院内研修会の実施と参加(年2回 5月、1月)  
安全ラウンドを通して安全な環境を検討する。  
インシデント・アクシデント発生後、4ラウンド法やP-mSHELLを用いて分析し対策を講じる。

### ④院内感染の防御

「自分を守る」「患者を守る」「仲間を守る」ために、手指衛生を徹底する。  
スタンダードプリコーションを遵守する。  
適切な場面で正しいPPEの着脱ができる。  
サーベイランスの実施(末梢ルート、CV、膀胱留置カテーテル)  
感染防御を養う研修会の実施と参加(年2回 7月:検査部、12月:看護部)

### ⑤褥瘡の院内発生を「0」へ近づける

患者さんの入院時、褥瘡対策に関する診療計画書を作成する。  
褥瘡ラウンドを通し、難治性や問題のある患者さまの体位チェックや検討を行う。(第3木 14時～)  
マットレスの管理、体位交換、おむつの当て方、栄養管理が適切か考慮し看護にあたる。  
ブレードスケール、DESIN-Rの評価を監査する。  
オムツ内環境を考えた効果的なオムツ交換を実施する。

### ⑥災害時の行動を明確にし、責任を果たす。

災害時対応マニュアルを作成する。  
マニュアルを使用した避難訓練を実施する。

## 3. 良い看護を提供するために、仕事と生活の調和を図る。

### ①心身ともに健康でいること。

やりがいや充実感を持てる仕事環境にする。  
リフレッシュ休暇を計画的に取得する。  
前年度より多い有給休暇取得を目指す。  
お互い様、お陰様文化を構築する。  
パワハラ、セクハラ等のモラルハラスメントを許さない組織風土を築く。  
心身のストレス状態や燃え尽きを予防・緩和するために、メンタルヘルス対策を積極的にすすめていく。  
夜勤勤務時間内に仮眠を60分取り(目標90分)精神的、身体的な負担の軽減を図る。  
日勤勤務時間内の午後に休息を10分程度取り、精神的、身体的な負担の軽減を図る。  
健康を維持するため、また地域住民への健康増進のため、禁煙活動を継続する。

### ②看護の質保証をするために自己投資を行う。

ポートフォリオを活用し、目標管理を行う。  
看護協会への加入を100%にする。

資質を高めるために資格手当を活用し、研修参加や専門書購入をする。

③看護の質向上に向けての取り組みをする。

看護研究に取り組み、得られた成果を看護実践に活かす。

患者満足度調査・職員満足度調査を実施し検討する。

職場風土調査を実施し検討する。

**4. 看護部の組織を活発にする。**

①新人教育の取り組みを通して「学ぶ組織」を作る。

②新人教育担当者会議のメンバーを中心に、新人教育の企画・運営を行う。

③WLBの取組みを継続し環境改善に努める。

④看護専門学校の実習施設である誇りを持つとともに、学生を通して学ぶ。

⑤各委員会活動は目標達成を目指す。

半期毎に評価し、次期の計画修正を行う。

⑥院内発表会において、看護部委員会の活動報告を行う。

⑦師長以上は、実践計画書を日々の業務で活用する。

**5. 社会や地域の人々の信頼を得るために、専門職としての品行を常に維持する。**

①看護者の倫理綱領のもと、専門職としての行動を律する。

②専門領域の教養だけでなく、社会的常識も十分培う。

③常に、誠実、礼節、品性、清潔、謙虚、良いマナーをもって患者さんの対応に心がける。

